

VI 弾道ミサイル等の発射への対応

1 Jアラートが発動される場合

弾道ミサイルが着弾した場合、風や破片などにより、身体へ大きな被害を受ける可能性がある。爆風や破片などから身を守るため、状況に応じた避難行動をとる。

弾道ミサイルが日本に飛来する可能性がある場合には、Jアラートが発動され、屋外スピーカーなどから国民保護サイレンとメッセージが流れる。また携帯電話やスマートフォンに緊急速報メールなどが届くので、Jアラート発動時時は、情報把握に努め、最新の情報を入手する体制を整える。

2 具体的な避難行動について

(1) 登校前（在宅時）【早朝講座開設日も同様】にJアラートが発動された場合

- ① 自宅で待機させる。（窓から離れる。窓がない部屋があればそこへ移動する）
- ② 「避難指示が解除されるまで」上記の対応を継続させる。
- ③ 携帯に届く緊急速報やテレビ・ラジオなどの情報をもとに、冷静に判断・行動するよう周知する。
- ④ 「避難指示が解除」されたら、すみやかに登校させる。
※登校時間が通常よりもずれ込む場合は、登校すべき時刻等の情報を学校ホームページ、Teams、スクリーンなどを利用して保護者、生徒へ連絡する。

(2) 登校中【早朝講座開設日も同様】にJアラートが発動された場合

- ① できるだけ頑丈な建物の中に入るよう周知する。
- ② 建物内に避難する余裕のない場合は、物陰に身を隠す、又は地面に身を伏せて頭部を守るよう周知する。
- ③ 「避難指示が解除されるまで」上記の対応を継続させる。
- ④ 携帯に届く緊急速報やテレビ・ラジオなどの情報をもとに、冷静に判断・行動するよう周知する。
- ⑤ 「避難指示が解除」されたら、すみやかに登校させる。
※登校時間が通常よりもずれ込む場合は、登校すべき時刻等の情報を学校ホームページ、Teams、スクリーンなどで保護者、生徒へ連絡する。

(3) 学校管理下（学校教育活動中）にJアラートが発動された場合

- ① 教職員は生徒の安全を最優先に、情報収集を行う。
- ② 学校の非常時連絡網、teams等を使い、状況や対応のあり方に関して連絡を取り合う。
- ③ 保護者連絡ツールを利用して最新の情報を保護者へ提供する。

※屋内の場合

- ① 窓から離れる。窓のない部屋があればそこへ移動する。
- ② 「避難指示が解除されるまで」上記の対応を継続させる。
- ③ 教科担任は最新の情報を入手しながら安全管理を徹底し、生徒を掌握する。

※屋外の場合

- ① 速やかに、できるだけ頑丈な建物（校舎等）の中に入る。
- ② 校舎を離れている場合（実習、修学旅行等）は、近くの公共施設等に避難し、適宜学校へ状況を報告する。
- ③ 「避難指示が解除されるまで」上記の対応を継続させる。

- ・ 「避難指示解除」の後、安全が完全に確認された上で、授業等の再開を判断する。
- ・ 教科担任等は、生徒の所在と安全確認を確実にを行った上で、授業を再開する。